

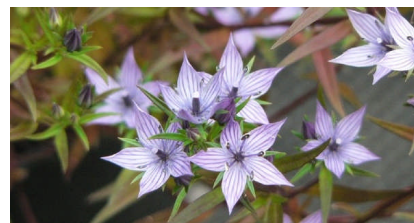
今月の記事

40周年記念

ユニット便り

リレーエッセイ

今月の愛の園



園長
武藤直二

開設 40周年を記念して

神愛会創立・愛の園開設40周年記念の講演とコンサートの集いが、11月17日に上富田文化会館で行われました。当日はあいにく大雨・洪水警報が発令されるほどの荒天となり、入場者が少なかったことがたいへん残念でしたが、服部万里子さんの講演と青野浩美さんのコンサートは、本当に豊かな内容となりました。心より感謝を申し上げます。



服部万里子さんは、「社会保障と税の一体改革に伴う動向と地域包括ケア」というテーマで、社会福祉に携わる専門職が学ぶべき内容を交えながら、高齢者介護の現状とこれからの課題について、穏やかな口調でわかりやすくお話ししてくださいました。

地域でのケアを実現するために新しく導入されたサービスや住まいに関する施策について説明くださりながら、一方で、事業所の大規模化、効率化によって利用者の選択が犠牲になることへの懸念、介護人材、ことに在宅サービスの要である訪問介護事業において、ヘルパー養成課程の改定や介護福祉士国家資格を目指す実務者への研修義務化などによって、担い手が減少することへの危惧にも触れられました。

今後の展望として、イギリスに実践例のある認知症初期集中支援チーム導入についての期待と、地域に密着した医療病床と、介護施設、居住系・在宅系サービスの相互の連携強化の必要性を語られました。

最後に、介護が必要になっても人間らしく暮らし続けるために、その人の力を活かし、家族の負担を軽減して地域でケアすること、専門的ケアを適正な費用で受けられること、専門職と地域が連携した総合的なケアマネジメントが充実すること、を課題として講演を締めくくられました。

青野浩美さんは、「前例がなければつくればいい」をテーマとして、同窓の新 真由美さんのピアノ伴奏で、「野ばら」、「オーソレミオ」、「Preghiera 祈り」などの歌曲、讃美歌「ちいさいかごに」、杉本竜一の「BERIEVE-ピリブ」など、豊かな声量と澄んだ声音で歌ってくださいました。

また、ご自身の発病から声を取り戻して歌い始めるまでのエピソードを、ユーモアを交えながら語ってくださり、前例がないなら自分が前例になる！決してあきらめない！との強いメッセージを届けてくださいました。

併せて、来場された方々へ、家庭にいる障がい者、高齢者に対する痰吸引などの「医療的ケア」への理解を呼び掛けられました。



18日には愛の園を会場として、入居者の皆さんを前に、歌曲、讃美歌に加え「ふるさと」や「手のひらを太陽に」なども交えて10曲余りを聞かせてくださり、突然軍歌や民謡を歌いだす方々にもやさしく応じてくださいました。

コンサート後は、宮崎理事長はじめ関わった職員が昼食を共にし、公演活動でのエピソードなども伺いながら、懇親の一時を持つことができました。

改めて、服部万里子さん、青野浩美さん、新 真由美さんに心からの感謝を申し上げます。ありがとうございました。



ユニットもクリスマスの飾り付けで華やいています 5ユニット



ユニット便り 11ユニット

11ユニットではリビングの中心に入居者の皆さんが寛げて、互いに交流が図れるようソファを配置しています。衝立を置き空間を分節することで、ユニットに訪問された際に玄関から直ぐにリビングや部屋が丸見えにならないよう配慮し、少しでも施設らしさを和らげ、住まいと思える環境作りに取り組んでいます。またリビングの窓からは熊野の山々を臨むことが出来る為、「今日は晴れて遠くまで山が見えるなあ。」「あの稲光凄いな。」などと日々の天気のことでも会話が弾みます。

8月にはユニット内での遠足として白浜観光に出掛け、「知ってる顔ばかりで楽しい。」と喜んでいただくことが出来ました。又、10月には材料の買い出しから参加して頂き、おやつのとこ焼き作りを行いました。割烹着を着て包丁を右手に「ちょっとそれ私に貸してみよし。切ったげるわ。」と腕まくりをしながらネギを

切ったりと笑顔が絶えず、「またたこ焼き作ろうな。」と好評でした。現在、次回のたこ焼き作りに向けて皆さんにネギの苗床を植えて頂き栽培中で、収穫を心待ちにする声も聞こえてきます。

今後もご家族の皆さんにも日常の様子をお伝えして協力を仰ぎながら、入居者の皆さん一人ひとりがその人らしく豊かな感情表現が出来、日々穏やかな生活が送れるよう支援して行きたいと思っております。気付いたことや要望など遠慮なく職員にお伝え下さい。



入口側から見たリビング



リビングのソファで寛ぐ皆さん

リレーエッセイ(7) 『私に今できること』

介護職員

菅根克幸

「兄ちゃん、良いバイク乗っているね。どこから来たの？」鳥取県へ旅行に行った時、私が道を尋ねたおじさんが聞いてきました。私はなんだか嬉しくなってバイクの事と友達の家に向かっている事、和歌山から来て鳥取の景色を見てとても感動した事を伝えると「和歌山からきたの！？また遠い所からきたね」、「事故しないように気をつけてな。」と優しい言葉を掛けてくれました。

私自身、学生の頃は自分から喋り掛ける事があまり無い様な人見知りでした。しかし介護の仕事に身を置いてから『年の離れた方とも接する機会が増えたこと』により、自分の気持ちに変化が出たのだと最近思います。『人と緊張する事無く話せるようになったこと』と、『最初にまずやってみてから判断すること』、

『自分には出来ないと思い込み、新たな自分への可能性をつぶさないこと』が何よりもプラスになったのではないかと思います。

バイク乗りにはYaeh! (Yeahのスペルミスなのですが...ヤエーと読むそうです)という言葉があり、対向車線からすれ違うバイクとの間でピースをします。その意味は「人差し指と中指があなたと私で、お互い無事に目的地へ到着出来るように！」という意味のおまじないだそうです。趣味の乗り物だからこそ、車では味わうことのない親近感、相手を思いやる気持ちが生まれるのだろうと思うと同時に、このような体験を元に普段でも相手を思いやる力をもっと磨かなければと思いました。

今回のリレーエッセイは、7ユニットの山本奈緒美さんをお願いします。



「キリストの愛を以って
互いに仕える」

社会福祉法人神愛会
特別養護老人ホーム愛の園

〒649-2103
和歌山県西牟婁郡上富田町
生馬 316-56

TEL (0739)47-1234

FAX (0739)47-4329

ainosono@shinai.or.jp

ホームページもご覧ください。
Web サイト アドレス:
<http://shinai.or.jp>

12～1月の愛の園

- 11(火) ひまわり会
- 12(水) 衆議院選挙不在者投票
- 13(木) やまびこ会
- 16(日) 日曜礼拝 大江ピアノ教室演奏
- 18(火) マリア会
- 19(水) 手芸サークル 歯科診療
- 20(木) やまびこ会
- 21(金) 上富田社協ボランティア来園
- 23(日) 日曜礼拝
- 24(土) キャンドルサービス～キャロリング
- 25(日) クリスマス礼拝・祝会
- 27(木) やまびこ会
- 30(日) 日曜礼拝
- 1(火) 新年祝賀朝礼

編集者から

山梨県の高速度道路で起こったトンネル天井崩落事故では、老朽化と点検の不備とが原因となって、貴い命が失われてしまいました。ご遺族の心痛はいかほどかと、胸が苦しくなります。

善良な人たちにこうした突然の不幸な出来事が起こることを、どう考えたらよいのでしょうか。残されたご家族は、神様が与える試練だからとか、何かを学ぶための尊い犠牲だからなどとは決して思えず、無念さと不条理さばかりが心に残り、憤りも覚えておられることでしょう。

こうした心に耐え難い痛みや苦しみを持つ人々の人生を受け止め支えることが、福祉職に求められる覚悟の一つと思われました。(A)